

発掘だより No, 15

平成2年12月8日(土) 豊川市教育委員会 社会教育課

三河国分尼寺跡範囲確認調査の概要

1、三河国分尼寺跡

豊川市八幡町周辺は、古代三河国の中心地として栄えた地域であり、三河国分寺跡・同尼寺跡をはじめとし、国府推定地(白鳥町)、船山古墳(八幡町上宿)など、数多くの重要な遺跡のあるところです。

三河国分尼寺跡は、国分寺跡とともに大正11年10月12日に指定を受けた国の史跡で、忍地(ニンチ)という字名や布目瓦の出土、礎石などから古くよりその存在が知られていました。奈良時代後半から平安時代にかけて、ここには立派な伽藍が並びたち、その南東側には碁盤の目のように区画された条里制の耕地が広がっていたと推定されます。



- 1、国分尼寺跡
- 2、国分寺跡
- 3、国府推定地
- 4、船山古墳

2、尼寺跡の発掘調査

この三河国分尼寺跡では、史跡東側耕地の土地改良事業をきっかけに昭和42年に発掘調査が行われました。金堂、講堂、回廊、中門、南大門などの主要伽藍の状況が判明し、尼寺としては非常に規模の大きな金堂をもち回廊が複廊であるなど数々の調査成果がえられました。しかし、残念ながらお寺の範囲(寺域)を確認するには至りませんでした。

そこで、豊川市教育委員会では、昭和63年度に策定した「史跡三河国分寺跡・国分尼寺跡保存管理計画」にもとづいて、今後この史跡を整備するための基礎資料を得る意味から寺域の確認調査を実施することにしました。



昭和42年度発掘調査全体図（縮尺1：1000）
「史跡三河国分尼寺跡発掘調査図集」より

金堂礎石列（東から）

3、今回の調査概要

寺域を確認するために、計6か所にトレンチ（試掘溝）を設けて調査を行っています。（計 約300㎡）

◆Aトレンチ

一番東側に設定したトレンチです。お寺の東側を区画すると考えられる南北方向の溝が確認されました。途中で西側に曲がっていますが、今回の調査ではその意味を明らかにすることはできませんでした。

◆Bトレンチ

土地改良以前の耕作で遺構面が破壊されていることが判明したため、調査をあきらめました。

◆Cトレンチ

昭和42年の調査で、寺域北限の土塁と推定される遺構が確認されていたため、その東側延長線上に設定しました。しかし、遺構面の残りが悪く、寺域推定の手がかりとなる遺構は確認されませんでした。

◆Dトレンチ

Aトレンチと同じく、寺域の東限を区画すると考えられる南北方向の溝が確認されました。

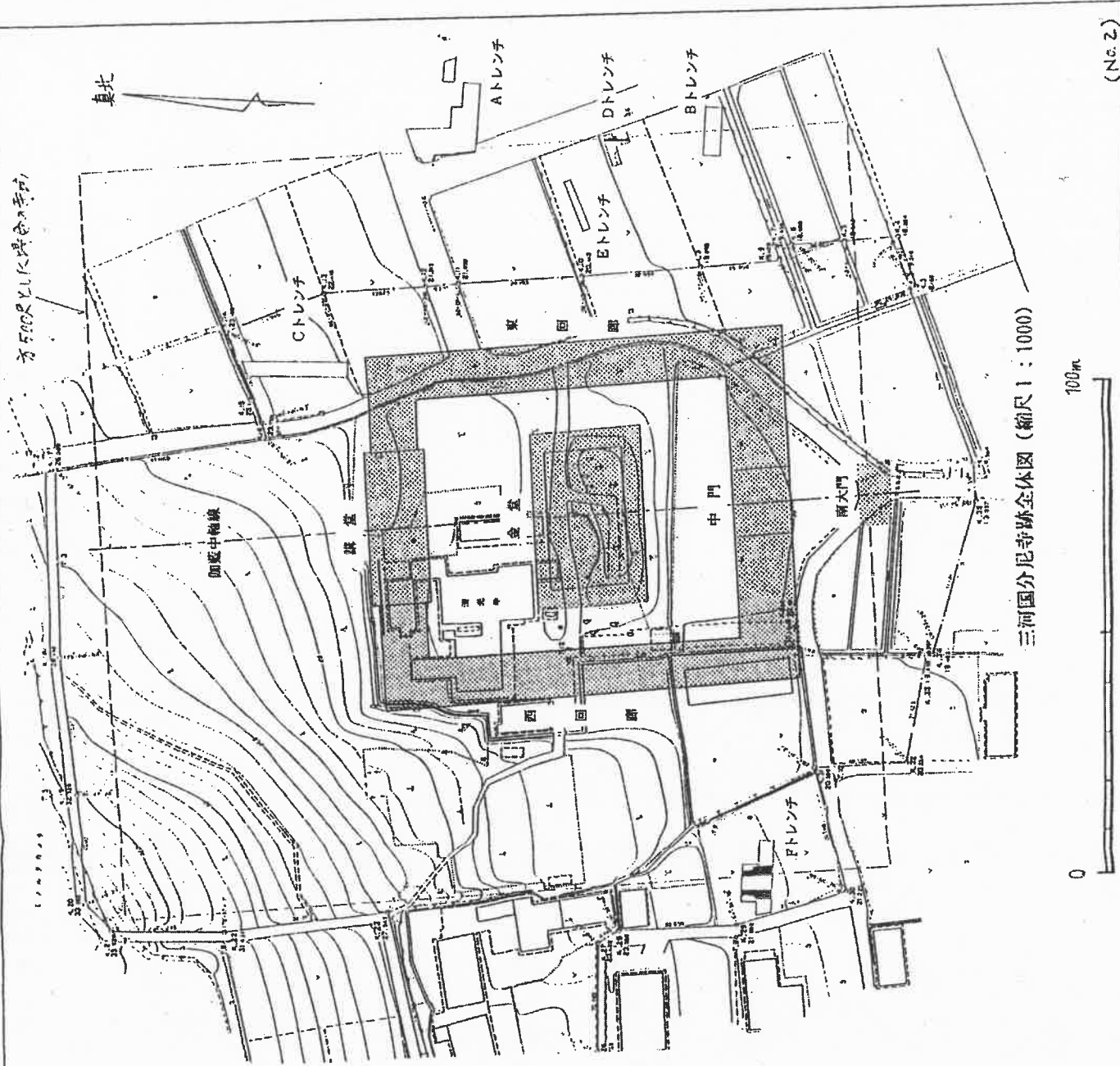
◆Eトレンチ

遺構は何も確認されませんでした。土地改良によって、遺構面がすでに削られている可能性も考えられます。

◆Fトレンチ

南北方向に平行して走る溝2条が確認されました。溝に挟まれる幅約3mの空間が、寺域の西側を面する築地塀の基礎部分と推定されます。

※Aトレンチ、Dトレンチ、Fトレンチで確認された溝は、いずれも伽藍中軸線から約75m離れていることから、寺域の東西規模は約150m（天平尺=29.7cmで約500尺）の可能性がよいといえます。

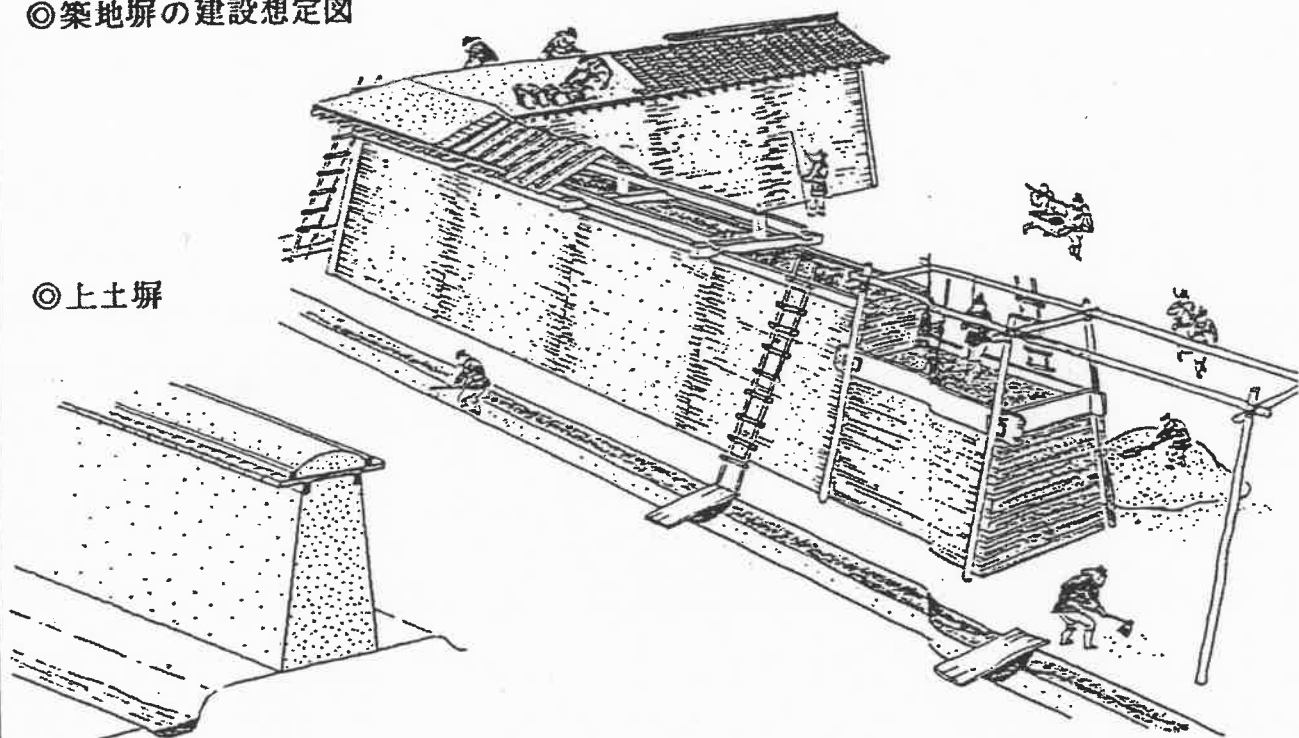


4、寺域を区画する遺構

国分寺や国分尼寺などの古代寺院では、寺の周囲を築地塀スゝで囲む例が多くみうけられます。下の絵のように土を固めながら積み上げ瓦を葺く例が一般的ですが、瓦を葺かない上土塀かづのような構造をとる場合もあります。ところで、三河国分寺は過去の調査で少なくとも東面の築地は瓦を葺く築地塀であったことが確認されていますが、三河国分尼寺の西面築地の場合、瓦がほとんど出土していないことから上土塀等の瓦を葺かない構造の塀が想定されます。

こうした塀は、後世の削平をうけることが多く塀自体がそのまま残っていることはまれですが、塀のわきに排水溝を設けることが多いことからその位置を推定することが可能になります。

◎築地塀の建設想定図



◎上土塀

5、出土遺物

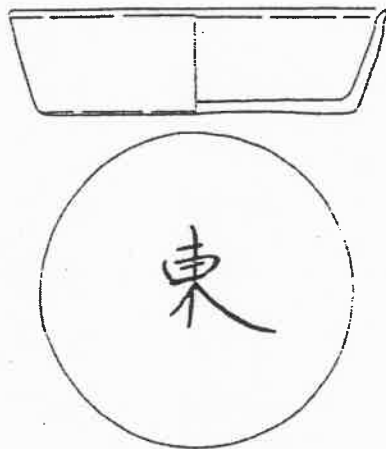
今回の調査では、国分尼寺の存在した奈良・平安時代の遺物を主体とした、さまざまな時代の遺物が出土しました。最も量が多いのはやはり国分尼寺の建物に使われた瓦ですが、お寺の外縁部を掘ったせい、それほど出土量は多くありません。軒先に飾られた文様のある軒瓦（軒丸瓦・軒平瓦）は現在のところ数点出土しただけです。ただし、いずれも三河国分寺跡で出土した瓦と同じ文様であり、僧寺（国分寺）と尼寺の造営や修理が、同じような形で進められたことをうかがわせます。

このほか、今回の調査では、^{ぼくしよ}墨書土器（土器の底などに墨で文字や記号を書いたもの）がかなり出土しており注目されます。

出土したのはいずれもAトレンチおよびDトレンチの溝の中からであり、「東」などの文字が書かれています。ここに暮らしていた尼僧の使っていたと考えられる土器に、どんな意味をもってこうした文字が書かれたのか興味深いところです。

こうした奈良・平安時代の土器（^{すえき}須恵器、^{はじき}土師器、^{あかやう}灰釉陶器）の他、中世の土器も若干出土しています。また、これまで豊川市内ではあまり発見されていなかった旧石器時代の石器（細石核、剥片）なども出土しています。

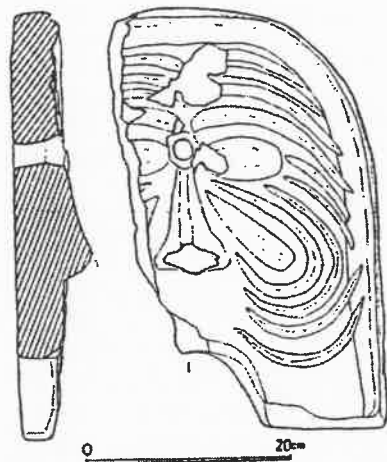
Aトレンチ出土の
墨書土器（1/3）



三河国分寺・同国分
尼寺の創建瓦の文様



昭和42年出土の鬼瓦



6、まとめ

今回の確認調査の結果、三河国分尼寺の寺域は東西約150mで、その中央に伽藍中軸線がおかれたことがほぼ判明しました。南北については、地形や地境などから推定してやはり150m（500尺）になる可能性が高いと考えられますが、今後寺域北限の追加の確認調査も行なう考えています。また、今回Aトレンチで出土したまとまった数の墨書土器は、三河国分尼寺の実態を解明する上で貴重な文字資料であり、今後の遺物整理が待たれます。

豊川市中心の歴史年表 (豊川町史編纂)

赤塚山周辺の歴史

石室内山系碗・土鍋等出土
この頃、赤塚山第1号墳緑色になる。
(第1号墳周辺で生活痕跡あり)

※ この頃
赤塚山第1号墳築造。
この頃
赤塚山系池石墳築造。

弥生土器(中期)
赤塚山系池石墳出土。
矢じり
赤塚山一帯へ
弥生土器出土。



時代	日本のおゆみ	郷土のおゆみ
中世	<p>1400 南北朝の合一</p> <p>1352 南朝の合一</p> <p>1336 足利尊氏、幕府を開く</p> <p>1333 鎌倉幕府はろひる</p> <p>1274 弘安の役</p> <p>1273 文永の役</p> <p>1233 建長寺式目につくられる</p> <p>1232 承久の乱</p> <p>1212 頼朝、征夷大将軍となり、鎌倉幕府を開く</p> <p>1185 平氏、壇の浦にろひる。守護、地頭の設置</p> <p>1159 平治の乱</p> <p>1156 保元の乱</p> <p>1086 白河土佐の院政が始まる</p> <p>1059 「源氏日記」でみる</p> <p>1059 源氏、院政一でみる</p>	<p>1357 笠原氏、豊川牧野に移住する</p> <p>1351 畠山氏と頼朝が本討願で戦う</p> <p>1322 足利村の頼朝氏、三河守護となる</p> <p>1184 花井寺、創建といわれる</p> <p>1134ころ、財原寺に土塚できる</p> <p>1034 大江定基平す(七三子)</p> <p>1009 (平安時代中期、浄土信仰がおこり、豊川四郎にも信仰が多くなされる)</p> <p>1009 (伴助實、東三河の郡部に任命される)</p> <p>988ころ、西園寺建立といわれる(九三五ともいわれている)</p> <p>982 大江定基、三河国司となる</p> <p>981 大江山巻、三河国司となる</p>
奈良時代	<p>794 京師に都を移す(平安京)</p> <p>774 国分寺建立(五智)</p> <p>741 聖徳太子が撰出(平塚宮)</p> <p>740 大化改新</p> <p>737 大化改新</p> <p>701 大化改新</p> <p>670 小野妹子を所に送る</p> <p>637 第一回遷都を送る</p> <p>593 聖徳太子が撰出となる</p> <p>562 任那が新羅にほろばされる</p> <p>478 倭王武が中国の隋朝に使いを送る</p> <p>400 このころ、佛、道が盛んになる</p> <p>大和朝廷の国土統一</p>	<p>75 財原寺創建といわれる</p> <p>701-704 三河守藤原氏に任命される</p> <p>701 三河守藤原氏に任命される</p> <p>赤塚山古墳群</p> <p>馬見塚古墳群</p> <p>八塚古墳、赤塚山古墳群</p> <p>6世紀 高き「U」型土の古墳出現する(田墳)</p> <p>5世紀後半 赤塚山古墳つくられる(地方豪族の墓、大和朝廷と関係が深かったと考えられる。國司古墳群第一号墳つくられる)</p> <p>3-4世紀 古墳文化開始</p> <p>3世紀-7世紀 古墳という墳墓つくられる</p> <p>千両橋子岡町小段で出土(大塚神社)</p>
飛鳥時代	<p>57 倭国四の王が後漢に使いを送る</p> <p>この頃から小国家の分立</p>	<p>瓜島遺跡(豊橋市)</p> <p>麻呂田遺跡、三谷原遺跡、下取山遺跡、行明遺跡、正岡遺跡、豊田遺跡、川島遺跡、岡本遺跡、駒形遺跡、回河原遺跡、坊入遺跡</p>
縄文時代	<p>縄文、金環器の使用が始まる</p> <p>[狩りや漁の生活]</p>	<p>第五田遺跡</p> <p>[赤塚遺跡、赤塚原遺跡、大崎遺跡]</p>